

巡回指導 (漁業者実態調査)

奥原哲夫

浜での指導にあたり、常に目的意識をもって出張することを心掛けるため、別紙のとおりその日に仕入れた情報と指導内容を取りまとめ、巡回指導を実りあるものにするように努力した。一応話し相手は各年代にまたがるようにし、地域も幅広く巡回し、情報収集と指導を行った。ここに公表するのはその一部である。

大半の相手は漁を休んで浜で骨休みしている組合員であるが、中には漁具の手入れしながら、話し相手になってくれた組合員もありました。声をかけてもすぐ話しにのってくれるわけでは

なく、名刺を見せて水産業改良普及員であることが確認できて始めて心を開いて話しにのってくれた。話しの相手になることをおっくうがっていやがる組合員もいたが、なんでも聞いてくれといわんばかりに気安く話しかける組合員も多かった。話し合いの時間は話しが弾めば1時間半ぐらい、話し下手な組合員とは30分ぐらいの時間である。

相手をつかまえるには天気は関係ない。いつでも浜にいけば2、3名の漁業者にあうことはできた。直接自宅を訪ねたときもある。

その1

1. 調査漁業者の経緯

50才。昭和38年に南風原中学校卒業。本土にわたり医療機器の製造組立等の旋盤工として4年間働いた。その後自衛隊に入隊して5年間務めた後、運送業にも携わった。漁業者になったきっかけはもともと海は好きであったが、本格的に漁業を始めたのは、妹が伊江島の漁業者と結婚したのが第1の理由で、漁業技術の指導を受け、15年前に漁船(2.95トン)も購入し、漁業経営を開始した。漁業種類はタマン等を対象にした底延縄漁業とソデイカー本釣漁業をやっている。漁協理事を務めて2期目になる。

2. 診断

漁船を5トン程度までの大型化を望んでいるが、借入金の返済に自信がないようで躊躇している。慎重な人柄とみる。

3. 指導

年齢も50才と働き盛りであるが、けして若いとはいえない。これから借金して船を大型化するより、現在の船で複合経営などにより水揚げの増大に努め、経営の向上を図ったほうがいい。

4. 評価

慎重な態度をとっているが、年齢のせいもあるだろうが、思うように水揚げが伸びないことが大きな原因と思う。

5. 今後の課題

漁業技術も直接指導を受けたりしているようで、今のところどうのこうのということはない。これからどうするという具体的な計画はない。

そ の 2

1. 調査漁業者の経緯

年齢50才。学歴なし。本部町出身。7才で八重山へ身売りされ、20才まで素もぐりと追込網漁業に従事した。その後、名護市をかわきりに各地を点々と渡り歩きながら漁業に従事。10年前に嘉手納町へきて住みつき、雑漁業と延縄漁業に従事している。延縄漁業は渡嘉敷村近海までいく。所有漁船は1トン余のクリ舟で、安全のため無線電話をつけている。

2. 診 断

現状に満足している。

3. 指 導

現在所有しているクリ舟の代船として大型化を考えているようだが、制度資金があるのでその活用を進めたい。

4. 評 価

生産活動はまじめと思われるが、漁業への取り組みに関しやや意欲にかける。

5. 今後の課題

現在の雑漁業と延縄漁業の兼業を今後も続けていく。漁業の転換等は特に必要とは感じない。

そ の 3

1. 調査漁業者の経緯

年齢41才。国立海員学校を昭和47年に卒業した1期生である。卒業後本土にわたりタンカー船の乗組員を4年間やった。その後、いろいろ仕事を変えたが、中城支所の職員も3年間務めた。平成3年から漁師である父といっしょに漁業に従事するようになった。父は建干網漁業をや、当人は周年延縄漁業に従事している。夏場はタマン、クチナジ等が中心で、冬場はチン、ミーバイ等が中心となっている。

2. 診 断

中城湾内を中心とした延縄漁業以外は念頭がない。

3. 指 導

漁船は2.9トンであるが、装備らしきものは

ひとつもない。これで不自由を感じないとのことであるが、今後装備の必要性を感じたときは、沿岸漁業改善資金を利用したらいいと思う。放流事業もさらに強化して欲しいということですが、普及員として沿振協への側面からの協力もできる範囲でやっていきたいと考えている。

4. 評 価

まじめな漁業者と見る。

5. 今後の課題

現在の延縄漁業を継続していくつもりのようなが、まだ若いので、いろんな漁業種類に好奇心を持って欲しい。

そ の 4

1. 調査漁業者の経緯

年齢35才。那覇工業高校卒業。卒業後本土にわたりタンクローリーの運転手を5年間（20才～25才をやった。その後2年間ほどベツト関係の仕事をやリ、27才の時から漁師である父と一緒に漁業を始めた。漁業種類はパヤオ漁業とソデイカ漁業である。所有漁船は4.67トン。

2. 診 断

漁師としては年の割りにまじめな方と思う。タチウオ漁業に関心を示している。

3. 指 導

漁ろう機器等の設置については沿岸漁業改善

資金を活用したらいいと思う。

4. 評 価

パヤオ漁業とソデイカ漁業以外は関心がない。若いのでいろいろ好奇心があってもいい。チャレンジ精神が欲しい。

5. 今後の課題

継続できる間は今後ともパヤオ漁業とソデイヨ漁業をつづけたい。

そ の 5

1. 調査漁業者の経緯

年齢60才。垣花小学校を3年生の2学期まで通学したが、空襲により学校をやめた。父も漁業者であったので、12才から漁業を始め、最初はマグロ船に4年間乗り、その後長崎県の壱岐地区で裕生丸（マグロ船）の乗組員をやリ、そこをやめて今度はクリ舟で水深40ヒロ～120ヒロの海域でマーマチ、白魚等を対象にした延縄漁業とタマン、クチナジ、アカジン等を対象に水深5m～300mの海域で一本釣漁業をやった。13年前に9.9トンの漁船を購入し本格的に独立してマグロ延縄漁業とソデイカー一本釣漁業を始めた。一航海25日前後。

2. 診 断

漁船を購入するとき、全然血のつながりのな

い知人に保証人になってもらうなど、心から信頼できる人柄と思慮される。

3. 指 導

現在のエンジンは13年経過、トラブルも発生したりするようで、そろそろ切り換えの時期と思われるので、沿岸漁業改善資金を利用したらいいと思う。

4. 評 価

常に前向き態度である。

5. 今後の課題

マグロ延縄漁業をソデイカー一本釣漁業と兼ね合わせて今後もつづけていく。年齢も60才と高齢化しているが、意にかいしないようである。